

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194300059), 法人名 (医療法人社団 信診連), 事業所名 (グループホーム家路), 所在地 (川上郡弟子屈町湯の島3丁目2番12号), 自己評価作成日 (令和3年7月4日), 評価結果市町村受理日 (令和3年11月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありのまま ゆっくり」「あったかい 手と手の出会いとふれあい」「やさしさと 笑顔があふれる日々」を理念に掲げています。ご本人、ご家族様と話し合いながら、そのらしさを尊重し尊厳を守り、ゆっくりと自分のできる(自立支援)環境を整え、医療法人の特性を活かしながら終末期を迎える体制を取っております。社会参加をすることで馴染みの方々との交流を継続する為、地域の催しは積極的に参加し、地元の学生や実習の受け入れなど来客者とのふれあいを大切に考えております。入居者様の中には園芸活動に積極的に活動できる方が多数おられますので、花の移植・野菜の種まき・草取り・収穫など行い、季節の移り変わりを感じていただいております。入居者様・職員が共に穏やかに生活することで優しい気持ちになれる暮らしを目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0194300059-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年9月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町の中心部に近く、また川沿いの公園に接するなど、住宅街でありながら自然にあふれた地域に立地している。事業所は住宅地にあるごく普通な民家風の造りで、トマツや檜、榎といった道産木材を豊富に使用した平屋の建物に1ユニット9名の高齢者が生活している。母体は長年、地域で医療を担ってきた医療法人で、訪問介護や居宅事業、デイサービス、訪問リハ等を総合的に事業展開しており、グループホームも他に同町内で1ユニット運営している。当事業所の特筆される点は力強い医療連携を挙げたい。法人代表のクリニック院長は、事業所に訪問診察以外にも一日に何度も顔を出し、主治医として利用者一人ひとりと談笑しながら症状を観察し、常に適切な指示を出しながら健康管理を行い、利用者の安全と家族の安心を担っている。また同法人の作業療法士が利用者の日常生活に対し、的確なアドバイスを行う場もあり、職員が介護に専念できる体制が構築されている点を高く評価したい。また、コロナ禍で多くが制限されるなか、外出についても外気浴等、出来る事から少しずつ取り組み、コロナを理由に閉じこもる事のないよう、職員間で検討を重ねている。今後も更なる地域での活躍に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケース会議・職員会議などで理念を確認しながら、ケアプランに反映し、日常のケアに実践できるように取り組ましております。	事業所の独自理念を作成し、日常的に共有している。また、職員会議等の場で、定期的に理念を振り返る機会を設け、質の高いサービスが実践出来るよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しております。近隣の方々との交流や地域の催しは、新型コロナウイルスの感染防止の為、軒並み中止になっており参加はできておりません。	事業所は、「町の医院」が運営する事業所として広く周知されており、通例では、主催する催し等の行事に近隣住民が参加し、利用者との日常的な交流も活発である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ですと地域への協力・参加や学生の就業体験やボランティア活動の協力、研修医・実習生の受け入れを行っておりますが、昨年より新型コロナウイルスの感染防止のため行っておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動の実情や社会一般の介護事情の事例報告等により、構成員の参考意見を職員と共有し、日々のケアやケアプランに活かす努力をしております。	通例では、行政や各委員等の参加を得ながら、運営推進会議を2ヶ月毎に定期開催している。書面での開催となった場合も議事録を送付し、意見を聞き取ることで、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや町の担当者とは常に相談できる関係にある。運営推進会議にも必ず町職員が出席し状況を把握しています。	行政とは運営推進会議や窓口で、助言、指導を得ている。その他、地域高齢者についても情報交換を行い、良好な協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ防犯対策として行っております。転倒・転落の危険性がある入居者様は、ご家族様と相談しながらサイドレールや離床マットを設置させていただいております。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、繰り返す事のないよう共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修には新型コロナウイルス感染防止の為、参加できておりません。内部研修として年2回行われており、不適切なケアについて該当しないか、会議において振り返り検討を重ねております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉権利擁護事業・成年後見人制度についての研修会には新型コロナウイルス感染防止の為、参加できておりません。感染症がおさまりましたら参加する予定です。支援事業関係者との相談できる体制は整えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し理解を得られるように努めています。不明な点などはいつでも問合せしやすい環境作りに気を付けています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に管理者・職員との意見・要望を話しやすい環境を心掛け、意見箱を設ける配慮も行っております。入居者様には、日々の生活の中から意向をくみ取るように取り組んでおります。	通例では、来訪時に意見や要望を聞き取っている。定例でお便りを発行し、個別のコメントや写真を添え、生活状況を伝えている。コロナ禍の対応として、窓越しの面会や電話等でも対話を図るようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議等や面談の際に個々の意見を聞き入れ、法人の管理会議で代表者へ伝えていきます。必要時には、法人の責任者が個別面談も行っております。	主に申し送りや職員会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、管理者が随時相談を受けたり、法人責任者による個別面談等、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎日ホームを訪れ職員とコミュニケーションを図っています。個別面談の報告を、適時代表者に伝えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に外部研修の予定を周知し、積極的に参加できる体制を整えています。昨今は新型コロナウイルス感染予防のため外部研修は参加できておりません。内部研修の回数を増やし指導担当者による日々のケアの中での指導に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会に加盟しており、情報交換・交流に努めています。地域包括支援センターを中心に、連絡協議会の活動に、積極的に参加しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケース担当者を中心に馴染みの関係作りを心掛け、本人の要望等の情報収集によってケアプランに反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を随時設けており、十分に時間かけ受け止める努力をしている。利用者の原状回復工事やケア方針等を相談し、関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と随時話し合いを設け、納得するケア方針を検討をしている。必要によっては、他のサービスやインフォーマルの活用について説明し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念「ありのままに ゆっくり」「あったかい手と手の出会いとふれあい」「やささと 笑顔があふれる日々」を実行すること、安心・安全な馴染みの関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係の構築により、本人へのケアのサポートも依頼している。そのために、家族との「ほう・れん・そう」を心掛け大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではありますが、入居者様が長年大切にしていた地域の行事への参加や法事等の支援、馴染みの店の活用を絶やさないように努めています。いつでも気軽に面会できるようなホームの雰囲気作りを心掛けています。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍の現在は、感染防止に留意しながらの面会や電話の頻度を上げて、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者が同士の関係が、支え合えるような支援に努めている	関わり合いながら共同作業ができるように分担し、お互いを敬い合える環境に留意しています。入居者間のトラブルは、お互いの相性等を踏まえて配置の検討等を等で努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了(死去)の家族には、落ち着いてからメールや手紙による近況伺いや、法事への挨拶等を行っている。代表者(主治医)が家族のかかりつけ医であることも多く、相談・支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から意向を把握しており、困難な場合は家族に相談やセンター方式の活用でくみ取れるように努めています。	利用者、家族の意向や希望の聞き取りに注力し、職員間で申し送りや会議の場で協議しながら、可能な限り応えられるよう努めている。	終末期に関して、最後の時間をどこで過ごしたいのか等の具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を聞き、本人の日常生活から読み取るように努力している。馴染みの方々との交流支援する事でこれまでの暮らしや交友関係を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録の充実と担当者会議での情報交換で、現状を把握するように努めています。各ケース担当者がセンター方式シートの活用で、情報を収集している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の活用で本人の視点での意向を介護計画に反映している。ご家族様と相談しながら事故防止計画も作成し安全確保に努めています。法人の医師・看護師・OTとの連携で、健康管理やADLの低下予防にも取り組んでいます。	利用者本位を基本に、家族、医師、看護師、作業療法士の意見を反映し、計画作成担当者が原案を作り、職員間でモニタリング成果と合わせて検討して、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った援助の実行と結果を日常の介護記録に記入し情報を共有している。ケース会議の際に記録を基に話し合ってます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の家族会や町の予防活動への参加、ボランティアへの協力はコロナ禍である為参加はしておりません。法人の医師・看護師・OT・訪問ヘルパーの支援や別のグループホームの活用ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事前の警察への相談をしております。コロナ禍のためボランティアの受け入れは行っておりません。ボランティアとの交流や地域や町内の催しの参加もコロナ禍のため行っておりません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が法人の代表者であることで、ご本人やご家族様は安心されている。専門医療への受診は、主治医・看護師が連携を図り対応できている。	母体医院からの理事長による訪問診療、看護師による健康管理が定期的に行われており、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の医師(主治医)が毎日訪問しており、入居者様の状態を把握しており、必要時に医師の指示を受け看護師が対応できる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院加療が必要な場合は、法人の医師(主治医)・看護師が医療機関との情報交換を行い、退院に向けての相談も、医療機関のMSWとの連携も図っている。医師・看護師・OTが確保できており、早期退院も可能な体制である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	代表者(主治医)と管理者より、ご本人・ご家族様への終末期に向けての説明をし、適時話し合いながら書面にて確認を行っています。地域の関係者・インフォーマルなサービスも含め、ご家族様に対する支援にも協力できる体制作りを心掛けている。	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ており、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。母体医院とのオンコール体制があることで、終末期においても、職員は安心してケアに専念出来る環境にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備しており、定期的に確認を行っております。救急時の対応について消防署や看護師より指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議において、地域の方々への協力を呼びかけている。災害時に向けて町職員との連携体制についても的に確認している。	消防署の参加も得ながら、定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。不意の災害に備え、地域との相互の対応、役割について話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳については理念にも掲げており、日頃のケアにも留意しています。ケアプラン作成時にも、援助内容に反映できているか打ち合わせを行っております。	職員は定期的に会議や研修の場で介護姿勢について学び、達成度を相互に検証しながら、理念に沿った尊厳ある対応となるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難であっても、本人の意思をくみ取れるよう心掛け、自己決定できるような選択肢を提供させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の日常業務より、入居者様の希望を優先し、日々の生活を大切にすることに取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の意思を尊重し、さりげなく着こなしを援助しています。通院や外出時等お洒落を楽しめるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好や要望を献立に取り入れられるように心掛けています。入居者様のと共にお食事の準備や片付けをする事で、楽しみや達成感を得られるように能力に応じた役割分担に配慮しています。	献立は利用者の希望を取り入れており、季節感を大切にしている。職員と共に準備や片付け等、好きな事を手伝ってもらい、役割を持ってもらう事で、楽しみある時となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	役場の栄養士と相談しながら栄養バランスに留意しています。アセスメントシートの活用で水分摂取量を把握しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄リズムとサインを把握することで、脱オムツを目指しています。最後までトイレで排泄できるための援助も心掛けています。	トイレでの自力排泄を目標に、チェック表を用いながら職員間で一人ひとりのサインを共有し、無理のない自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により、排泄状況を把握しており、水分摂取、適度な運動、毎日の乳製品の摂取に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はホームで決めさせてもらっていますが時間帯は希望に合わせてるように配慮しています。入浴に抵抗がある場合は、入居者様の同士や家族の協力、関係の良い職員が対応する等の工夫に取り組んでいます。	週に2回以上、個々の希望、ペースに合わせて入浴出来るよう努めている。拒否がある場合、無理強いすることなく、時間帯や担当者を調整しながら、楽しい入浴の時となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活のリズムを配慮しつつ、適度な運動や休息を促しています。適度な昼寝にも留意しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書で服薬内容を把握しており、症状の変化などは、随時、医師や看護師と相談できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や日常の生活の様子から能力を把握し、発揮できる場を検討し役割分担に配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社会参加を心掛けており、外出支援を重点に支援していますが、何分コロナ禍の為、行動範囲に限られております。外気浴・散歩・園芸等入居者様の能力・体力に合わせて取り組んでいます。	通例では、季節ごとのドライブ、外食やホームの菜園での野菜作り等が行われている。閉じ籠りがちな禍中こそ、感染対策に留意しながら、近隣への散歩等、職員と一緒に外出し、外気に触れる機会作りに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望によって職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への随時の電話や自筆でのお手紙や年賀状の支援をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって心地よいと思われる音楽(同様・クラッシュ・歌謡曲等)を流し、大きな騒音(声・物音)をたてないように注意しています。季節を感じられるホーム内の装飾類の工夫に努めています。ホーム内にくつろげるスペースを確保し、他人の視線を感じずに過ごせる空間に留意しています。	利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで、自宅のような居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者の作品や、季節感に配慮されたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを設置した談話スペース、大きめの食卓テーブルと人数以上の椅子を設置する事によって自由に過ごせるように整えています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は馴染みの物を持ち込むよう働きかけています。できるだけご家族様の写真を飾り居心地の良い環境づくりを心掛けています。	居室は本人の習慣を考え、落ち着いて過ごせるよう、使い慣れた家具や思い出の品、写真等で飾られ、自宅さながらに、ゆったりと過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自動で作動する照明や水回り設備等を設置せず、自分で操作できるように援助しています。バリアフリーであることで能力が低下しないように運動に繋がる作業(家事・散歩・園芸等)の働いかけを行っております。		